

【展示物名】 生体展示ホール（小型水槽・大型水槽）

【該当する学年】 小3 小4 小5 **小6** 中1 **中2** 中3

【学習指導要領】 エネルギー 粒子 **生命** 地球

<小学校6年>

(3) 生物と環境

動物や植物の生活を観察したり、資料を活用したりして調べ、生物と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようにする。

ア 生物は、水及び空気を通して周囲の環境とかかわって生きていること。

イ 生物の間には、食う食われるという関係があること。

<中学校2年>

(3) 動物の生活と生物の変遷

生物の体は細胞からできていることを観察を通して理解させる。また、動物などについての観察、実験を通して、動物の体のつくりと働きを理解させ、動物の生活と種類についての認識を深めるとともに、生物の変遷について理解させる。

ア 生物と細胞

(ア) 脊椎動物の仲間

脊椎動物の観察記録に基づいて、体のつくりや子の生まれ方などの特徴を比較、整理し、脊椎動物が幾つかの仲間に分類できることを見いだすこと。

イ 動物の体のつくりと働き

(イ) 刺激と反応

動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、その仕組みを感覚器官、神経系及び運動器官のつくりと関連付けてとらえること。

【写真】



【「動く図鑑」をレイアウトした小型水槽】



【棲息域で分けしている大型水槽】

【展示物の説明および学習内容（ねらい）】

☆ 小型水槽では、大淀川やその支流に棲息する魚や水生小動物を種類ごとに展示している。魚の運動のようすをより理解しやすくするために、観察カメラを設置した水槽や流水水槽、魚の下部が観察できる2面観察水槽なども設置している。

大型水槽は、上流域、中流域・下流域、河口域の3つに分け、館のマスコットとして親しまれているアカメのほか、大淀川の代表的な魚を展示している。

☆ **小学校6年「自然とともに生きる」**では、魚が水中を泳いでいるようすを実際に見学しながら、魚と水とのかかわりについて体感的に学習することができる。

また、餌やりのようすを見学することで、動物は食物を食べて生きていること、生物の間には食う食われるという関係があることを体感的に理解することができる。

☆ **中学校2年「動物のくらしやなかまと生物の変遷」**では、魚類の体のつくりや運動の仕組みについて、実際に見学しながら学習することができる。

また、流水水槽では、魚が水流の刺激に反応して泳ぐ向きを変えるようすが観察でき、**刺激と反応について体感的に理解**することができる。